

3・11郡山現地へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2014年1月6日
No.164

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

反対同盟・萩原進事務局次長を追悼する 市東さん農地決戦の勝利で闘魂に込めよう 悲しみをのりこえ、霞ヶ関へ攻め上げる闘いを! 全学連三里塚現地行動隊



12月21日、三里塚芝山
連合空港反対同盟の指導
者・萩原進事務局次長が
急逝された。享年69歳。
何ということだろうか。
萩原さんは2014年決戦に
むけ、三里塚闘争の新た
な展望を実感しつつ、勇
躍、闘いに躍りこもうと
していた矢先の逝去だっ

た。その悔しさは如何ばかりであろうか。われわれは、
萩原さんの果たそうとして果たしえなかった闘いを断固、
引き継ぎ実現しなくてはならない。

世界は激動している。昨年末の韓国民主労総の歴史的
ゼネスト決起。日本においても特定秘密保護法強行を先
端とした安倍政権の戦争政治に対する巨万人民の決起が
開始された。しかし安倍政権は、共謀罪の策動、防衛計
画大綱に示された前代未聞の戦争国家化、武器輸出三原
則の解禁、沖縄辺野古新基地建設の強行そして新エネル

ギー計画における原発の推進と安全保障とのリンクなど、
改憲・戦争へのめり込む以外に延命の方策はない。

こうした大きな激動を最も鋭敏にとらえて、その中で
霞ヶ関に乗り込み、反原発、沖縄、反TPPそして国鉄
決戦と文字通り結合し、市東さん農地決戦の勝利にむけ
た戦略と構想を着々と練り、そのための準備を展開して
いたのが萩原さんだった。

持病をかかえつつも、その責任感と使命感の大きさか
ら、体にむち打って現地～全国をかけまわった萩原さん。
その死去はまさに革命的「戦死」だ。

しかし、悲嘆にくれている余裕はない。また萩原さん
自身が拒否するだろう。われわれがなすべきことは鮮明
だ。日帝・国交省・空港会社への怒りも新たに、萩原さん



通夜・告別式には全国から多くの労働者・学生・農民が集まった

あきらめられるか 忘れられるか 福島への怒りはおさまらない!

3・11反原発福島行動'14

- 〈日時〉 3月11日(火) 14時～
〈場所〉 郡山市総合体育館にて(集会後、デモ行進)
〈呼びかけ〉 3・11反原発福島行動実行委員会
〈連絡先〉 ◆FAX: 024-575-5124
◆メール: 3.11fukushimaaction@gmail.com



が闘い取ろうとしてやまなかったすべての課題を、残されたわれわれが120%やりぬくこと、これこそ萩原さんの魂を追悼する唯一の道だ。課題は膨大だが、萩原さんが勝利の道筋をつけてくれ、展望は大きく開かれている。

3・23全国集会～3・26第一回弁論へ！

ついに開始された反対同盟自身による周辺地域との連帯・結合の闘いを粘り強く継続し拡大しよう。控訴審勝利にむけた3万人署名を集めきり、「霞ヶ関へ攻め上る」と宣言した闘いを何としても実現し、東京高裁・貝阿彌誠裁判長の心胆を寒からしめる巨大な闘いを実現しよう。

3月23日の東京・芝公園での三里塚全国集会を大成功させよう。その力で、3・26第1回弁論闘争を、高裁を十重二十重に包囲する大部隊で実現しよう。

そのためにもまず、1・12新年団結旗開きの大成功を勝ち取らなくてはならない。その場で萩原さんの闘魂の前に2014年決戦の決意と市東さん農地決戦の勝利を誓おう。

一切の土台は6000万労働者との合流であり、国鉄決戦を基軸とした階級的労働運動の前進との一体化だ。2014年決戦の勝利へ進撃しよう。行動隊はその先頭で闘う。



萩原さんの棺を「反対同盟歌」で送り出す(12月28日)

沖縄県知事・仲井真の「辺野古埋め立て承認」を弾劾する

2013年12月29日 全日本学生自治会総連合(斎藤郁真委員長)

12月27日、沖縄県知事・仲井真は記者会見を行い、米軍普天間基地の辺野古移設に向けた「辺野古沿岸部の埋め立て申請」を承認した。断じて許すことはできない。徹底弾劾する！

この10日間すべてが、安倍と仲井真との腐りきった「茶番劇」だった。仲井真は17日、全閣僚と知事との政策協議会の中で、政府に「普天間の5年以内の運用停止、早期返還」等の基地負担軽減策や約3408億円の沖縄振興予算を要求。公約である「県外移設」要求は封印し、安倍に秋波を送った。これを受けて安倍は25日、仲井真に要求額を上回る約3500億円の来年度振興予算と21年度までの3000億円台の予算の確保を約束。一方、基地負担軽減策については、「防衛省に作業チームを設けて検討する」とお茶を濁した。ところが仲井真は、これを「驚くべき立派な内容だ」と手放しで評価。記者に「前へ進み始めた実感がある。これはいい正月になる」とうそぶき、埋め立て承認を示唆した。そして、27日に承認を発表した。

沖縄県庁にはこの茶番劇に怒り、仲井真に埋め立て不承認を求める労働者民衆が連日押し寄せ、25日に1500人、27日に2000人以上が集まった。27日には人々は県庁1階ロビーに座り込み、承認発表に対して怒りの声を叩きつけた。

この期に及んで仲井真は、承認は「あくまで環境保全上の事務的判断」であり、「県外移設の公約は変更していない」、「総理自らの確約」で「(5年以内の普天間)運用停止の道筋がみえつつある」と居直っている。どこまで破廉恥なのか！

安倍こそ、オスプレイの強行配備と訓練拡大で、沖縄全土をまさに日々危険にさらしている張本人だ。12月冒頭には秘密保護法を強行成立させ、沖縄戦の歴史をねじ曲げ、改憲・戦争へと突き進んでいる日帝支配階級の頭目だ。「速やかに事業に着手し、事業期間を少しでも短縮するよう努める」(小野寺防衛相)と言うように、安倍は仲井真の埋め立て承認と普天間停止要求をもって、辺野古新基地建設を加速させようとしている。基地建設反対闘争に襲いかかることを宣

言している。早速、「辺野古工事刑事特別法適用へ 海保も投入、妨害即検挙」(29日付『産経新聞』)という報道も出ている。どんなペテンを弄しようと、仲井真は明確にこの立場に立ったのだ。

自民党沖縄県連に続く仲井真の「転向」で、政府に県外移設を要求する「オール沖縄」路線の破産もはっきりした。

「重要なことは、『オール沖縄』の掛け声のもと、政府にすり寄れば物事が解決するかのような幻想が吹き飛んだことです。『オール沖縄』とは聞こえは良いのですが、要するに労働者や労働組合の闘い、辺野古現地での独自の行動を否定する考え方です。政府にお願いをして基地建設が止まったことなど一度としてない。辺野古現地やそれを取り巻く労働者民衆の闘いが基地建設を止めてきたのです」(沖縄大生の訴え)

辺野古新基地建設の目的は、「1%」の資本が生き延びるための新たな侵略戦争体制構築だ。大恐慌下で危機に陥った米帝、日帝や中国が東アジアでの勢力圏争いを強め、軍事的緊張と戦争の危機をもたらしている。辺野古新基地建設は、中国との対決を強める「米新軍事戦略」にもとづく基地の統合強化であり、沖縄の侵略出撃基地化だ。これを許せば必ず新たなアジア侵略戦争と第二の沖縄戦に行き着く。絶対に許してはならない。

基地は全面撤去以外にない！ 基地建設と侵略戦争を阻止し、新自由主義・帝国主義を打倒する力は、今年11・3労働者集会と訪韓闘争が示したように、「1%」に対する「99%」の団結であり、闘う労働運動と学生運動の復権、国際連帯の強化にこそある。改憲と戦争、原発推進の安倍政権への怒りは全国で燃え上がっている。韓国の労働者階級は28日、「鉄道民営化阻止・パクネ打倒」の渾身のゼネスト闘争に感動的に決起した。全世界の労働者・学生の闘いと連帯し、2014年、「改憲阻止・安倍政権打倒」の100万人決起の先頭に沖縄と全国の学生は立とう！ 300万学生の決起で辺野古新基地建設を阻止しよう！

【当面する行動方針】

●1・10法大暴処法弾圧裁判第8回控訴審

1月10日(金) 13時半～ 東京高裁にて ※傍聴券配布のため30分前までに裁判所脇に集まって下さい

●3・7法大処分撤回第5回裁判

3月7日(金) 16時半～ 東京地裁・615号法廷にて ※30分前までに裁判所脇に集まって下さい

